

## 1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成27年6月10日

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670200593
法人名	川薩福祉企業組合
事業所名	ケアホーム田海園
所在地	鹿児島県薩摩川内市城上町9750番地7 (電話) 0996-21-9338
自己評価作成日	平成27年2月1日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/46/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/46/index.php</a>
-------------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉21かごしま
所在地	鹿児島市真砂町54番15号
訪問調査日	平成27年3月4日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者一人ひとりの性格や予想できる行動等を全職員は把握し、安心できると考えられる環境づくりや支援をしている。ご家族様の面会時には日頃の様子などを伝え、遠方の家族様には電話などでお伝えし、時には電話で本人様と話していただいている。

それぞれの主治医は定期的に往診されるが、普段と違う状態の時は主治医に連絡・状態報告し、必要時は往診、専門の病院受診など病気の早期発見をこころがけている。

毎週月曜日と土曜日は隣接するデイサービスとの合同レクレーションを実施し、地域の利用者との交流の場となっており、利用者は楽しみにしている。季節の行事計画ではそうめん流しやドライブに出かけたり、気候の良い時は施設周囲を散歩に出かけるなどしていただいている。

今後も、理念である『目配り・気配り・思いやり』を忘れず、利用者様と寄り添い、和やかな雰囲気の中で安心した時を過ごしていただけるようにしていきたい。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

○薩摩川内市の山合いに位置し、自然に囲まれ、野鳥の声など、山の季節を十分に味わうことができる。

当事業所の敷地内には、有料老人ホーム等関連施設が併設されており、通所の方々との交流が頻繁に行なわれている。職員間の交流も盛んで、多くの協力体制が構築されている。

○急変時、重篤時には医師から、段階的に本人、家族に詳しく説明し、理解していただく体制が整っている。加えて、事業所内において出来る事など説明し利用者の信頼を得ている。

○職員体制を工夫して入浴時間を夕方に設けたり、隣接するデイサービスと定期的に合同レクレーションを行い地域住民との交流の場を設けたり、利用者本位となるケアに創意工夫して取り組んでいる。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	事業所理念は、玄関と休憩室に掲示しており、管理者と職員は、理念である『目配り・気配り・思いやり』を常時考えながら利用者様に接し、事故等や不安の軽減に努めている。	平成15年の開所時からの理念を法人と共に事業所の理念としている。事業所の数箇所に掲示して、職員は日常的に意識して日々のケアに努めている。職員同士は業務の中で共有してケアへの実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	隣接するデイサービス利用者との交流の場として週2回合同レクレーションに参加している。職員の付き添いで散歩に出た利用者様は近所の方との会話も楽しまれている。	老人会からのタオルの進呈や慰問での来訪があり、日常的に近隣との付き合いを広げる努力を重ねている。中学生の職場体験学習の受け入れ等の経験もあり、今後も継続できるように検討している。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	社協開催のボランティア体験学習や中学生の職場体験や介護実習受け入れを行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者や園行事等について出席者の意見を出してもらい、違う方向から見た対応方法などを聞くなどしてサービス向上に取り組んでいる。	会議は、家族・消防署員・行政などの参加を得て2ヵ月に1回開催している。行政の参加があることで、その時期に必要な情報が得られている。事業所の現況報告や行事・課題等についての意見交換や地域の情報提供等が行われ、日々のサービス向上に活かされている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	福祉課には生保利用者について、高齢・介護福祉課には介護保険や事業所の実情等について相談しながら解決に取り組んでいる。	市の担当者からは、認知症サポーター研修の参加要請を頂き出席している。運営推進会議で出された意見についてのアイデア等も頂いている。各種の手続き等の訪問や電話により、利用者の暮らしぶりやニーズを具体的に伝えて連携を深めるように努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束の弊害について代表者や全ての職員は理解しており、日中は施錠せず、外に出る利用者様には職員が付き添うなどしている。	身体拘束委員会が中心となり、外部や内部での研修会に参加して事業所で報告している。言葉による制限にも管理者を始め職員全員が気を配っている。日中は居室や玄関の施錠もせず、外出を希望する利用者には、制限することなく職員が同行し散歩等で対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会では資料に沿って虐待について学ぶ機会を持ち、虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	研修会などの案内があれば出席して学びたいが、案内も少なく活用する機会がない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	利用開始時に、重要事項説明書や利用契約書について説明する時間をとり、利用者や家族の疑問に返答するなどして理解・納得をいただいている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	玄関に『苦情受付箱』を設置しており、面会時や電話をかけた際に意見・要望などを聞き、改善に取り組んでいる。	ご家族の思いや意見等は、相談窓口である事業所内で受け付け、対応は必要に応じて法人等でも検討して職員と共にケアのサービス向上に繋げている。日常の面会時や電話連絡時に意見・要望を聞き出すように努め、今後は家族アンケートの検討も予定している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月開催する職員会議やその他の機会に代表者への要望はないか聞く機会を設け、運営に反映させている。	毎月の職員会議で出された意見は法人の代表者に報告し、必要な部分は改善等の検討を依頼している。業務や利用者へのサービス等の改善が必要な事柄については、その都度検討して実践し、また、評価を行い、円滑な業務が行える体制づくりに繋げている。	
12		○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員個々の努力や実績等を把握し、給料等に反映させている。喫煙所や冷暖房完備の休憩室を設け、一息つける環境づくりに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくを進めている</p>	<p>他事業所に比べると研修参加はまだ少ないが、案内があれば該当する職員が参加している。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>機会は少ないが、研修会等に参加した際に同業者との交流がある。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に入院先や自宅で面会するなどして本人と話し、日頃の様子等を聞くなどして安心できる関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	在宅時の様子や家族の不安・希望等に耳を傾けながら、園での生活に安心感を持っていただけるような関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前の相談やアセスメント等で心配事や希望等を聞き、家族や本人の意向に沿うように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者は人生の先輩である、との考えを職員は持っており、得意なことや生活の知恵などを教えていただくことで職員も学び支えあう関係を築いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係  職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族の思いを受け止め、日々の生活の中での出来事や気づいたことなどを共有することで共に本人を支えていく関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前より利用していた美容室に出かけたり行きつけの病院受診など、今までの関係が途切れないよう、支援に努めている。	入所時の聞き取りなどから情報を得て、友人や知人の訪問並びに家族の面会などの支援を積極的に行っている。遠方にいる家族には様子を写真メールなどでお知らせしている。また、墓参りなどは家族に対応をお願いしている。併設しているデイサービスとの合同レクリエーションは、利用者同士の交流の機会であり楽しんで頂いている。	
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	耳の遠い方の隣に座って目を見ながら話すなど個別に話を聴いたり、みんなで楽しく過ごす時間や利用者同士で話す機会を作るなど、職員が調整役となって支援している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院先へのお見舞いや家族への電話などでの相談等にも応じている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	職員は個々の性格や日頃の動き等を把握し、意向に近いものになるよう努めている。意思疎通が困難な方には日々の関わりの中で把握するよう努めている。	入所希望時や利用開始時の本人・家族からの聞き取りや、日頃の暮らしを通じて利用者の思いや意向を可能な限り把握できるように努めている。職員は内容を共有して、必要な対応を検討してより良い支援に結び付くように取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や知人の面会時に話を聞くなどしてわかる範囲内でこれまでの暮らし方の把握に努めている。	/	/
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	普段の生活パターンや前日の様子・夜間の状況などを把握することで、その日の体調やできそうなことなども把握するよう努めている。	/	/
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族や主治医の意見を聞き、随時の職員からの情報収集などを職員会議時で検討し計画を作成している。三ヶ月後にモニタリング、六ヶ月後にアセスメントして計画の見直しをしているが、状態変化の場合は随時見直しをしている。	本人や家族の意向を伺いながら、観察、アセスメントを行い、職員の意見を反映したケアプランを作成している。環境の変化等でもモニタリングを行い、再度ケアプランを見直している。状態変化時は随時計画の見直しを行い、変化がなくても定期的に見直しを行って現状に即した介護計画を作成している。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子等を個々の記録に残している。普段と違った言動等があれば記録、連絡ノートにも記載して職員間で情報共有、必要時には主治医へ相談するなどして計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	遠方に居住する家族など状況に応じて、必要であれば病院受診同行なども支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の小学校慰問時には一緒にレクリエーションをしたり、学校の職場体験や社協のボランティアの受け入れ等で違う雰囲気を楽しむことができるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけ医受診を支援している。病状によっては家族と話し合い、主治医と連携して病状に合った医療機関受診を支援している。本人・家族の状況によっては受診同行にも対応し、結果を家族に報告している。	本人・家族が希望するかかりつけ医の受診を継続支援している。また、急変時の対応が可能な医療機関との連携も整い、医師の往診が行われている。通院は原則としてご家族へ対応をお願いしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	普段の状態を把握することで病気の早期発見に努めている。状態によっては連携をとっている主治医に報告・相談、必要時は夜中でも往診を受けることができるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には本人に関する情報を医療機関に提供している。入院中の面会や病院相談員との情報交換、家族との連絡などで退院支援に結び付けている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期については入居時に説明している。重度化が予想される場合は早い段階で主治医から家族へ説明してもらい、主治医へ報告・相談、家族とも話し合いながら事業所としてできる限りのことを支援している。	急変時及び重度化や終末期については、ホームの方針を入居時に説明し、段階に応じて医師に関わって頂き、家族・事業所・関係者と十分に話し合っ対応している。事業所で実施可能な対応等をしっかり説明して、本人や家族に理解をしてもらう努力をしている。今後は方針を明文化して説明する予定になっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生について資料を用いて職員会議時に勉強会を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>消防局へ依頼し消火訓練や利用者参加の避難訓練を実施している。地域への呼びかけはまだ十分ではない。</p>	<p>年2回消防署の協力を得て、現在は昼間想定での避難訓練を実施している。火災の夜間想定については、今後自主的に行うことや地域への呼びかけも積極的に実施することを検討している。訓練は敷地内の関連施設も同時に行い職員間の協力体制は整っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の性格を理解し、プライバシーや尊厳を損なわないよう配慮しながら声かけや対応を行っている。	本人の誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応を、入浴や排泄時のケアをはじめとした日常のケアの際に全職員がお互いに確認し合いながら行っている。また、個人情報に関する記録の扱いや保管場所にも十分に気を配っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の顔を見て、表情等を確認しながら本人が自分で決めることができるような声かけをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、一人ひとりの体調や気分に合わせて過ごせるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	園行事や家族との外出時は、職員と一緒に衣類等を楽しみながら選べるよう支援している。なじみの美容室がある利用者には家族・知人と一緒に美容室へ行っていただいている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	朝食準備では利用者に味噌汁の具を切ったり、洗い物も時には手伝っていただいている。夏場は一緒に収穫した庭の野菜も使っている。	食事を楽しみながら行う雰囲気づくりに努め、食卓の後片付け等を利用者の能力に応じて一緒に行い、週に数回は手作りのおやつでお茶の時間を楽しんでいる。「喫茶店」を開店し、庭でのお茶や食事会並びに行事食等の特別食も楽しんで頂いている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員は一人ひとりの食べる量を把握しており、食事摂取量を記録して食べ方に変化がないかを確認している。水分を少しでも多く摂れるような声かけや時間帯も工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立の利用者には歯磨きの声かけをしている。介助が必要な方にはお茶を入れたコップやうがい受けを準備し、一つひとつ声かけしながら口腔内が清潔に保てるようにしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を利用する事で個々のパターンを把握、タイミングを合わせた排泄声かけや介助をすることでオムツ類に頼らずトイレで排泄できるよう支援している。	個人の習慣や状態に応じた排泄支援になるように、「バイタルチェック・水分摂取表」で排泄パターンを把握して、適宜の誘導や声かけを行っている。布パンツの利用も含めて、利用者個々に合った対応となるように職員全員で十分に検討している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	服用している緩下剤の内容を理解し水分を多く摂るようすすめたり、歩行不可の利用者にはなるべく自分の足で力強く立つてもらおうような介助をするなどして自然な排便があるよう工夫している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	15時半頃より夕方にかけて毎日入浴準備をしており、その日の気分に応じて入浴していただいている。毎日入浴される方もいる。	利用者の体調や気持ちにも配慮しながら、出来るだけ家庭と同じ時間帯で入浴できるように職員体制を工夫して、夕方近くに入浴出来る様取り組んでいる。入浴は毎日でも可能であり、利用者の個々に合わせて柔軟に対応している。家族の協力で温泉に行く利用者もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりお好きな場所でくつろいでいただいている。日中は居室で休む方もいるが、閉じこもりにはなっていない。夜間は安眠を妨げることなく安心して休んでいただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容や量の変更を全員で共有し、状態観察した結果は医師へ報告・相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の性格等を把握して、できる作業をお願いしている。そうめん流しや花見など出かける楽しみを味わっていただいている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	散歩を日課とする利用者には30分～1時間ほど職員も同行、天気の良い日には普段外へ出れない介助を要する利用者も外に出ている。外出希望があれば家族と連絡をとり好きな所へ外出できるよう支援している。	利用者の希望を日頃の会話から得て、更には家族からの情報も活用しながら、天候や健康状態に応じて買い物や散歩・日光浴など、可能な限り支援している。藤川天神の臥竜梅見学、ソーメン流しは恒例となっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	特に使うことはないが数千円自己管理している利用者もあり、気候の良い時期に買い物同行できるように支援している。		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	家族と電話で話す際に本人にも話をしていただいている。家族宛に暑中見舞いや年賀状などを書いて喜ばれている。		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	ホール壁にはみんなで作った季節の壁画や写真などを飾って季節感を出している。廊下の壁には楽しかった行事などの写真を貼っており、廊下を歩く時に写真を見て楽しく語らせるように工夫している。	利用者は、清掃の行き届いたリビングで、思い思いにゆったり過ごすことが出来る。温度や湿度にも十分に配慮がなされ、季節が感じられる花や手作りの作品なども飾られて居心地良く過ごせるように工夫されている。また、外気浴も充分楽しめる環境になっている。	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	居間兼食堂には椅子・ソファがあり、それぞれお気に入りの場所で気のあった方とくつろいでいただけるよう配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>家具やベッドの位置は入居時に決めていただき、お気に入りの写真や人形などを飾りその方らしい居室になるよう工夫している。</p>	<p>事業所が準備した、エアコンや箆筒・電動ベッドが設置され、他に本人や家族希望で準備された馴染みの身の回りの物が持ちこまれている。本人が暮らしやすい個性に合った居室作りを支援している。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>一人ひとりのできること・わかることを把握しており、各場所には札や写真、暖簾などをかけて場所がわかりやすいように工夫している。</p>	/	/



## V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
		○	3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない